

同和教育に関する学生アンケートの分析

— 身分制度に関する教科書記述の変遷からの検討 —

教育学部附属教育デザインセンター

小宮 龍一

教職大学院

持田 訓子

教職大学院

野中 陽一

1 はじめに

1-1 教科書記述のはじまり

1965 年の同和対策審議会答申を受け、1969 年に同和対策特別措置法が施行され、国をあげて同和問題解決のための取組が進められることとなった。教育においても部落差別について科学的な知識を教えることによって部落差別の解消、同和問題の解決につなげるべく、1970 年代前半から社会科教科書に被差別身分についての記述が始まった。当初の教科書の内容は被差別身分の低位性や生活の悲惨さを中心に記述したものであった。記述が始まって間もない 1978 年の第 38 回全国同和教育研究大会においては部落史学習を終えた後で差別事件がおこるという事例が報告された。このことについて、古川

(2003) は「身分制度の学習で、教科書にある『士・農・工・商・えた・ひにん』ということばが、子どもたちの生活のなかで序列・順番の概念として認識され、集団の中にある一定の上下関係や差別・被差別の関係にあてはめて差別発言として使われていくケースが多発した」と指摘している。

1-2 歴史研究の進展

1970 年代後半からの歴史研究の進展とともに、江戸時代の被差別部落が差別と貧困に苦しんでいたという従来の定説とは異なる様々な状況も明らかになった。中世の賤民身分に関する黒田 (1973) や網野 (1991)、近世の身分制に関する脇田 (1972) や朝尾 (1981) らの研究により、いわゆる近世政治起源説は克服されるとともに、農工商のあいだに序列は存在しなかったことや、農工商以外のものが排除されて差別されるようになったことが

示された。また上杉 (2004) は被差別身分は排除され差別されたものの、百姓や町人に支配された身分ではなかったことから、従来の授業で広く使われていた被差別身分を最底辺に置いたピラミッド型の図が誤りであるとした。

1-3 教科書記述の変化

歴史研究の進展を受け、江戸時代の身分制度に関する教科書の記述も徐々に変化し、2000 年にはすべての小学校歴史教科書で「士農工商」という言葉が使われなくなり、2002 年にはすべての教科書で被差別身分についての記述が「最下位におかれた身分」から「差別された身分」と変化した。このような教科書記述の変貌を上杉 (2003) は「豊かな啓発や授業実践を切り開く可能性をもつ」と評価している。また江戸時代の社会において被差別身分が果たした役割等についても積極的に記述されるようになった。具体的には被差別身分が医学の発展に貢献したり、伝統文化を伝えたりしたことなどが多くの教科書に記述され、被差別部落が力を合わせて藩のお触れを撤回させた汚染一揆がすべての小学校校歴史教科書に記述された。これは新保 (2006) により示されたところである。

1-4 研究のきっかけと目的

新保が 2005 年に神戸親和女子大学と大阪市立大学の学生 (合計 345 名) を対象に行った調査 (以下「2005 年調査」という) において、「大学以前にピラミッド型の図で、江戸時代の身分差別支配の名称を習った」と回答した割合が 71.9% であった。このことについて新保 (2006) は「変化してきた社会科教科書を学校で教える教師たちが、その指導内容の変化を認識し、授業に変化

をもたらすところまで至っていない現状が明らかになった」と指摘している。しかしながら、新保の調査で対象となった大学生が小学校6年生であった1995年頃は小学校の教科書記述の見直しが始まる前で、すべての小学校歴史教科書（7社）において被差別身分は最下位の身分として記述されていた。したがって新保の指摘は、少なくとも小学校については適切とはいえない。

筆者は2017年5月に横浜国立大学の教養教育科目「学校教育最前線」において人権教育を中心に3回の講義を担当した。講義を受講している学生が小学6年生であったのは概ね2007～2010年であるので、教科書に被差別身分が「別の身分」「差別された身分」と記述されるようになって以降のことである。1回目の講義において人権課題の一つとして同和問題を取り上げ、1989年版と2005年版の教科書（小学校社会6年、大阪書籍）で身分制度について記述している内容を示し、その違いを読み取らせるワークを行った。ワークのまとめでは、過去には被差別身分は「最下位の身分」として記述されていたが、現在は歴史研究の進展により「最下位の身分」ではなく「差別された身分」として記述されていると説明した。ところが講義後に提出されたワークシートには「差別をなくす目的とはいえ、歴史をねじ曲げるのはよくない」「事実は事実として記述すべきだ」といった趣旨の感想が少なからずあった。歴史研究の具体的な成果についての説明が不十分であったことが一因にあるが、そのような感想を記載した学生は「被差別身分は身分制度の最下位に置かれていた」との理解にたっており、教科書の記述内容が見直されても学生が受けてきた授業内容が旧来のままであることが窺われた。このことについては塚田（2010）が大学での講義の経験から、教科書記述の改善にもかかわらず「学生の中に近世の社会像、時代像に抜きがたい固定観念があるように思われる」と指摘し、「このような固定観念を打破し豊かな近世史像をどのように提示しうるか。これは＜中略＞高校までの日本史教育の課題でもある」と述べている。

新保の研究から12年が経過し、小学校のすべての歴史教科書が被差別身分を最下位の身分と記述しなくなつてからは16年が経過している。小学校6年の社会の授業はどのように変化しただろうか。本研究では大学生へのアンケート調査と、講義を受講した学生のワークシートへの記述内容からその変化について明らかにし、今後の課題について考察したい。

2 教科書記述の変遷の確認

2-1 目的

歴史研究の進展を受けて、1990年代以降に江戸時代の身分制度に関する小学校歴史教科書の記述内容の見直しが進んだ。複数の見直しの要素があり、また複数の教科書が使用されている中でどのように見直しが進んだかについて確認し、見直しの全体像を明らかにする。

2-2 方法

1989年以降、各年代において使用されたすべての小学校歴史教科書について主な見直しの内容と考えられる次の4点について確認をした。

- ①被差別身分の記述について「最下位の身分」から「別の身分」「差別された身分」とする見直し。
- ②被差別身分が団結して藩の差別的なお触れに反対した「洪染一揆」について記述。
- ③被差別身分が医学に貢献したことについて記述（解体新書の挿絵解説を含む）。
- ④被差別身分が伝統文化を伝えたことについて記述。

2-3 結果

確認の結果は次表のとおりで、a/bはb冊中a冊の教科書が対応していることを示している。なお、表上欄の①～④は「2-2 方法」に記した4点の確認事項に対応している。

表 教科書記述の変遷⁽¹⁾

| 使用年 | 冊数 | ① | ② | ③ | ④ |
|----------|----|-----|-----|-----|-----|
| 1989-91年 | 5 | 0/5 | 1/5 | 0/5 | 0/5 |
| 1992-95年 | 7 | 0/7 | 4/7 | 0/7 | 0/7 |
| 1996-99年 | 5 | 0/5 | 5/5 | 1/5 | 1/5 |
| 2000-01年 | 5 | 3/5 | 5/5 | 4/5 | 3/5 |
| 2002-04年 | 5 | 5/5 | 5/5 | 4/5 | 4/5 |
| 2005-10年 | 5 | 5/5 | 5/5 | 5/5 | 5/5 |
| 2011-14年 | 5 | 5/5 | 5/5 | 5/5 | 5/5 |
| 2015年- | 4 | 4/4 | 4/4 | 4/4 | 4/4 |

「最下位身分」から「別の身分」「差別された身分」へ
の見直しは2002年までにすべての教科書で行われ、洪染一揆については1996年以降、医学への貢献と伝統文化を伝えたことについては2005年以降すべての教科書が記述している。2002年に同和対策関係の特別法が期限切れとなった直後には、学校教育において同和問題が様々な人権課題の一つと位置づけられることで、身分制度に関する記述が簡略化されるのではないかという不安

の声が一部にあった。しかし 1990 年代から見直しの行われた内容は特別法の期限切れ後も引き続き現在まですべての教科書に記述されていることが確認できた。また記述内容も記述の量にも大きな変化は認められなかった。

3 アンケート調査の実施

3-1 目的

江戸時代の身分制度について、現在の大学生が大学入学以前に学習してきた内容を把握することにより、教科書記述の見直しにそって授業内容の見直しが進められているか否かを明らかにする。

3-2 方法

横浜国立大学の学生で 2018 年度前期の教養教育科目である「学校教育最前線」の受講者を対象に調査を行った。具体的には筆者が担当する第 1 回目の講義（5 月 8 日）の冒頭で調査用紙を 237 人の出席者に配付して実施した。調査用紙の提出は 225 人で、回収率は 94.9%である。なお、記入の直後に回収しているので講義の内容が調査結果に影響することはない。

質問内容は 2005 年調査と比較するために 2005 年調査と同じく「江戸時代の身分制度について、あなたが大学入学以前に習ったことに近い内容はどれですか」とした。選択肢については 2005 年調査の選択肢と同じ選択肢（一部表現を改めている⁽²⁾）を 9 項目、新たな項目を 2 項目として複数回答可とした。

3-3 結果

調査の結果を次に示す。なお、カッコ内は 2005 年調査の結果である。

- (ア) 江戸幕府が「上見て暮らすな、下見て暮らせ」と農民支配のためのしくみを作ったと習った。
13.8% (63.8%)
- (イ) 士・農・工・商・えた・ひにんと言う名称を習った。
83.1% (88.1%)
- (ウ) ピラミッド型の図で、江戸時代の身分差別支配のしくみを習った。
49.3% (71.9%)
- (エ) 被差別民は人のいやがる仕事をさせられ、農民よりも苦しい生活を強いられたことを習った。
50.2% (72.5%)
- (オ) 被差別民は汚染一揆などのように、差別に反対して立ち上がったことを習った。
21.3% (42.0%)
- (カ) 被差別民は伝統的な芸能を伝え、日本の文化をさ

- さえたことを習った。
17.3% (-)
- (キ) 被差別民は医学の発展に貢献したことを習った。
7.1% (-)
- (ク) 被差別地域の村は人口が増加したことを習った。
6.2% (6.4%)
- (ケ) 被差別地域の村は雪駄づくりなどの雑業の収入が大きかったことを習った。
11.1% (9.0%)
- (コ) 被差別地域の村は皮革産業が盛んだったことを習った。
15.6% (24.1%)
- (サ) 「えた・ひにん」という言葉は、差別的な言葉であることを習った。
70.7% (57.4%)

4 「教科書記述の変遷」に関するワークの実施

4-1 目的

大学以前の学校教育の中で身分制度についてどのように学んできたかを把握する。

4-2 内容

アンケート調査を行ったのと同じ「学校教育最前線」の筆者が担当する 1 回目の講義において、江戸時代の身分制度について説明している 2 種類⁽³⁾（A、B）の小学校教科書を読み、ワークシートに「武士、農民（百姓）、職人、商人、被差別身分」の関係を図に表す作業を行った。図に表すワークは個人で行い、記入後に 2～3 人で共有化と意見交換を行った。なお、A B ともに大阪書籍発行の小学校社会 6 年上で、A は 1989 年版、B は 2005 年版である。

また、自分自身が小学校で学んだ内容は A と B の記述のどちらに近い内容であったかをワークシートに記載させた。

4-3 結果

A については図 A-1 のように武士・農民・職人・商人・被差別身分を縦に並べた図を描いた者が 142 人 (59.9%)、図 A-2 のようにピラミッド型の図を描き、底辺を被差別身分とした者が 91 人 (38.4%)、その他・無記入が 4 人 (1.7%) であった。

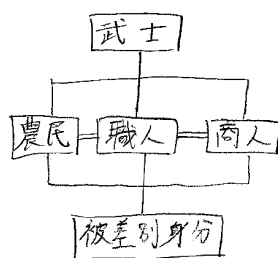
B については図 B-1 のように武士・[農民・職人・商人]・被差別身分を縦に並べた図を描いた者が 162 人 (68.4%)、図 B-2 のようにピラミッド型の図を描き、底辺を被差別身分とした者が 58 人 (24.5%)、図 B-3 のように被差別身分を最下位でなく別の身分であることを図に表した者は 5 人 (2.1%)、その他・無記入が 12 人 (5.1%) であった。



図A-1



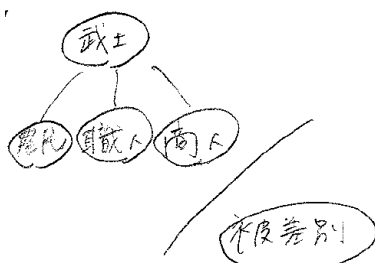
図A-2



図B-1



図B-2



図B-3

自分自身が小学校で学んだことに近い内容としてA（1989年版）を選んだ者が169人（71.3%）、B（2005年版）を選んだ者が61人（25.7%）であった。なお、7人が無記入、または複数記入であった。

5 考察

5-1 教師の認識について

5-1-1 アンケート調査の結果から

講義を受講した学生237人のうち222人が1, 2年生で、彼ら、彼女らが小学校6年生であったのは2010年前後である。したがって彼ら、彼女らが使用した小学校歴史教科書は江戸時代の身分制度に関する見直しが行われて以降の教科書である。

また、選択肢の中で（ア）（ウ）（エ）は見直し以降

の教科書には記述されていない内容であり、（オ）～（コ）は見直し以前には記述がなく、見直し以降に記述されるようになった内容である。

見直し以降の教科書に記述されていない（ア）（ウ）（エ）を習ったとする割合がそれぞれ13.8%、49.3%、50.2%である。特に（ウ）（エ）については約5割の学生が習ったと答えている。このことから教科書の見直し以降もかなりの割合の教師が旧来の内容で授業を行っていたと考えざるを得ない。ただし2005年調査と比較すると（ア）が50.2ポイントの減、（ウ）が22.6ポイント減、（エ）が22.3ポイント減となっており一定の改善を読みとることもできる。

本稿2-3で確認したように（オ）は1996年から、（カ）（キ）は2005年からすべての小学校歴史教科書に記述され、現在もすべての教科書で記述されている。すべての小学校歴史教科書に長年にわたって記述されている内容であれば多くの学生が「習った」と回答するものと考えがちであるが、実際には「習った」とする割合はそれぞれ21.3%、17.3%、7.1%であった。これらの数字は「教科書の記述内容」が「習った内容」とイコールでないことを示していると言えよう。

5-1-2 ワークの結果から

2017年度の「学校教育最前線」の講義で思わぬ感想が寄せられた経験から「自分自身が小学校で学んだことに近い内容」としてA（1989年版）を選ぶ学生が少なからずいるであろうと予想していた。しかしながら実際には71.3%と7割を超える学生がAを選んだ。繰り返しになるがほとんどの学生は見直しが行われた2005年度版以降の教科書を使用していたにもかかわらずである。

ワークの解説においてはAが1989年版、Bが2005年版であることを示し、記述内容が大きく変化しているのは歴史研究が進んだためであると説明した。昨年の講義では「差別をなくす目的とはいえ、歴史をねじまげるのはよくない」等の感想があったことの反省に立ち、歴史研究の成果の一例として江戸時代の和泉国南王子村の大幅な人口増加や渋染一揆の嘆願書（現代語訳）を取り上げ、被差別部落が必ずしも経済的・文化的に遅れていたのではないことを示した。講義終了後に提出されたワークシートの記述欄には次のような記載があり、これらの記載からも彼ら、彼女らの受けた授業が教科書の内容にそっていないものであったことを表している。

・いかに私たちの学習内容が遅れていて、偏見があるか

ということがわかった。

- ・私は小中と被差別部落の人は貧しかったとしか教わってこなかった。しかし、実際にはそうではないと知っておどろいたし、もっと多くの人に事実を広めるべきだと思った。

5-1-3 教師の認識

アンケート調査の結果からも、ワークの結果からも、教科書記述の見直しが進んでも教室での授業内容は見直しが進んでいない状況のあることが示された。古川(2003)は「教職員の部落問題認識、人権感覚こそが、過去も現在も、そして将来にわたっても、もっとも肝心な教育条件である」と指摘している。

多くの教師は世代的に被差別身分について「最下位身分」と記述した教科書で学んだ世代であり、今回の調査結果等から少なくない教師たちの知識、認識が現在も旧来のままであると考えられる。また20代の教師は見直し後の教科書を使用した世代であるが、授業では旧来の内容を学習し、そのままの知識、認識でいる場合も少なくないであろう。このような現在の状況は、これまでの教科書記述の見直しについて、その趣旨が実際に教室で教える教師に十分に伝えられていなかった結果と考えられる。今後も教師の自己啓発のみに頼っているのは現在の状況を速やかに改善することは難しいと言わざるを得ない。2016年12月には部落差別解消法が施行され、国は「部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うもの」とされ、地方公共団体は「その地域の実情に応じ、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うよう努める」とされた。教科書記述の見直しが進んでも授業内容の見直しが十分には進んでいない現状においては、教師が身分制度について教科書記述の内容にそって教えられるようになるための教員研修の実施が必要であろう。また、そのような研修を実施する場合には歴史研究の成果についても具体的に取り上げることが大切である。

5-2 教科書記述について

5-2-1 身分制度の図示(ワーク)の結果から

Aの記述は1989年版で見直し以前の内容であり、被差別身分は「最下位身分」として記述されているので、学生がワークシートで描いた図も「その他・無記入」を除いてほぼ全員(98.3%)が上下で身分の関係性を示し、最底辺を被差別身分としていた。記述の中にピラミッド型につながる要素はないが、91人(38.4%)がピラミッド型の図を描いている背景には、アンケート調査におい

て約5割が「ピラミッド型の図で、江戸時代の身分差別支配のしくみを習った」と答えているように身分制度の学習においてピラミッド型の図が広く用いられていることが考えられる。

Bの記述は2005年版で記述の見直し後のもので、被差別身分の最下位性は取り除かれているにもかかわらず、図B-1のような武士・[農民・職人・商人]・被差別身分を縦に並べた図と、図B-2のような被差別身分を底辺としたピラミッド型の図を合わせると92.8%となる。なぜ9割を超える学生が被差別身分を最下位とした図を描くのか。また、なぜ描いた図で被差別身分が「別の身分」であることを示した学生はわずかに2.1%なのか。

一つには教科書記述において被差別身分の最下位性が取り除かれても、授業では教師から被差別身分は最下位身分であると教えられ、その固定観念から抜け出せないということが考えられる。また同じワークで読んだAの記述に被差別身分の「最下位性」が明確に記述されていることの影響を受け、記述の違いを読み取れなかったことも考えられる。しかしこれらのことだけで92.8%という数字が合理的に説明されるとは考えられない。一つの可能性として、教科書の執筆者は歴史研究の成果を反映させ最下位性を取り除いた記述としているものの、教科書を読む側の教師や児童に執筆者の趣旨が伝え切れていないことも考えられる。Bは前段において「農民(百姓)や町人は武士に支配され、武士の暮らしを支える身分とされた」ことを記述し、「さらに、農民や町人から差別された人々もいました」と続けている。ワークを行った学生はこの記述内容から武士・[農民(百姓)・町人(職人・商人)]・被差別身分という上下関係を導きだしている可能性がある。

5-2-2 教科書記述のさらなる改善

現行の4社の教科書は被差別身分について次のように記述している。なお、いずれの教科書も前段において武士が百姓・町人を支配していたことを記述し、その内容に続けての記述となっている。

日本文教出版：

「さらに、百姓や町人からも差別された人々もいました。」
教育出版：

「さらに、百姓や町人とは区別され、差別された人々もいました。」

光村図書：

「百姓や町人とは別に厳しく差別された身分の人々もい

ました。」

東京書籍：

「また、百姓や町人とは別に厳しく差別されてきた身分の人々もいました。」

前段において武士が百姓・町人を支配していたことが記述されているため、「さらに」という接続詞を用いれば、武士が被差別身分をも支配し、後段で記述される被差別身分をより下位の身分であると教師や児童が理解する可能性がある。身分制度を図示するワークにおいて見直し後の教科書記述からも92.8%が被差別身分を「最下位の身分」と描いたことの大きな要因は「さらに」という接続詞にあると考えることができる。武士が百姓・町人を支配していた内容に続けて、被差別身分について記述するのであれば、接続詞は「さらに」ではなく、「また」がより適切ということになる。

併せて、歴史研究の進展を受けて「最下位の身分」から「別の身分」「差別された身分」へと記述を見直してきた趣旨から考えれば、「別に」という2文字が挿入されることがより適切である。教師にも児童にも分かりやすく、誤解を与えないような教科書記述が求められている。

6 まとめと今後の課題

6-1 まとめ

1990年代以降、歴史研究の進展により、小学校の歴史教科書（6年社会）における身分制度の記述は見直しが進んだ。教科書記述の見直しを受け、小学校6年の社会科の授業がどのように変化しているのかを明らかにするため、大学生へのアンケート調査と講義で実施したワークの結果の読み取りを行った。アンケート調査の結果からも、そしてワークの結果からも、現在の大学生が小学校6年生であった2010年前後は、教科書記述の見直し後であるにもかかわらず、旧来の内容の授業が行われていたことが明らかとなった。そして教師の知識、認識が旧来のままであることがその原因であると考えられることから、教師が身分制度について教科書の記述にそって教えることができるようになる必要があり、そのための教員研修が求められるとした。また、小学校歴史教科書の身分制度に関する記述をテーマに論じたが、学校現場の多忙化が大きな課題となっている現在、教科書の内容にそって適切に授業が行われていくためには、校種や教科を問わず、教科書の改訂内容に関してはその趣旨を含

めて丁寧に現場の教師に届けることが各教育委員会や教科書会社にも求められると考えている。

講義の中のワークで見直し後の教科書の記述から身分制度を図示させたところ、9割を超える学生が被差別身分を最下位とした図を描いた。このことから現在の教科書記述にも改善の余地のあることが明確となった。今後さらなる教科書記述の改善が必要である。

6-2 今後の課題

本研究で実施したアンケート調査は現在の大学生に大学入学以前に習った内容を問う内容であり、考察も回答結果から小学校6年の社会科の授業内容を推し量っている。7年前、8年前に受けた授業内容の記憶は必ずしも正確とは言えず、中学校や高等学校での学習内容と混同している可能性も否定できない。また本研究では小学校の教科書記述を取り上げたが、身分制度についてより詳細に学ぶ中学校、高等学校の教科書記述の変遷と授業内容の変化についての研究も必要であろう。

【注】

- (1) 詳細については稿末の参考資料を参照。
- (2) 選択肢（ア）（イ）（ウ）（ク）については選択肢全体の表現を統一するとともに、より適切な表現とするために一部を変更している。なお、新保（2005年）の調査の選択肢は次のとおり。
- （ア）江戸幕府が「上見て暮らすな、下見て暮らせ」と農民支配のための差別のしくみを作った。
- （イ）士・農・工・商・えた・ひにんと言う身分の名称を習った。
- （ウ）ピラミッド型の図で、江戸時代の身分差別支配の名称を習った。
- （ク）被差別民の村は人口が増加したことを習った。
- (3) ワークで使用した教科書の記述内容は次のとおり。

A

士と農工商

幕府は、秀吉が決めた身分のきまりをいっそう強め、武士による支配のしくみをかためようとした。そのため、武士にはみょう字を名のり、刀をさすなどの特権をみとめるいっぽう、農民・町人を、農（農民）・工（職人）・商（商人）の身分に分けて、武士とはっきりと差別しました。

人口の大部分をしめ、ねんぐをおさめている農民は、武士につく身分とされ、物をつくる職人は農民の

次におかれ、商人は職人よりも下の身分とされたのです。

それぞれの身分の中でも、上下の関係が細かく分けられました。

そのうえ、幕府は、農・工・商の下に、さらに低い身分をおきました。この低い身分におかれた人々は、河原など悪い条件の土地に住まわされました。また、山野や用水の利用もほとんどゆるされず、職業や服そうも制限されて、苦しい暮らしをしいられました。

B

身分とくらしを調べる

幕府や藩は、秀吉が決めた身分のきまりをもとに支配をかためました。

武士には、政治をおこない、名字を名のり、刀をさすなどの特権がありました。

村に住む農民（百姓）や、商人と職人からなる都市に住む町人たちは、おもに農業や商工業の仕事をしていました。これらの人々は、武士に支配され、ねんぐなどを納めて武士のくらしを支える身分とされました。

さらに、農民や町人からも差別された人々もいました。これらの人々は、服装や行事・祭りの参加などできびしい制約を受けました。しかし、農業を営んでねんぐを納め、すぐれた生活用具をつくったり、芸能を伝えたりしたほか、医学の発展にこうけんするなど、当時の社会や文化を支えました。

黒田俊雄 「中世の身分制と卑賤観念」『部落問題研究』33号（1973）部落問題研究所

網野善彦 『日本の歴史をよみなおす』（1991）筑摩書房

網野善彦 『日本社会の歴史』上・中・下（1997）岩波書店

脇田修 「近世封建制と部落の成立」『部落問題研究』33号（1972）部落問題研究所

朝尾直弘 「近世の身分制と賤民」『部落問題研究』68号（1981）部落問題研究所

盛田嘉徳、岡本良一、森杉夫 『ある被差別部落の歴史—和泉国南王子村』（1979）岩波書店

斎藤洋一、大石慎三郎 『身分差別社会の真実』（1995）講談社

引用文献

古川正博 「教科書記述の変遷と同和教育（抄）」『同和教育』第500号（2003）

上杉聡 『これでわかった！部落の歴史』（2004）解放出版社

上杉聡 「歴史教科書が変わった」『部落解放』第511号（2003）

新保真紀子 「小学校社会科・身分制度成立に関する教科書記述の変遷」『神戸親和女子大学学術リポジトリ』（2006）

塚田孝 「近世社会像と教科書記述」『近世身分社会の捉え方』（2010）部落問題研究所

参考文献

参考資料 教科書記述の変遷

①身分制度

下:被差別身分を最下位の身分と記述

別:被差別身分を最下位でなく「別」の身分、「差別された」身分と記述

－:小学校社会の教科書を発行していない(以下②～④も同様)

記載の
割合

| 使用年 | 東京書籍 | 教育出版 | 光村図書 | 大阪書籍 | 日本文教 | 日本書籍 | 帝国書院 | 中教出版 | 割合 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 1989-91 | 下 | 下 | － | 下 | － | － | 下 | － | 0 / 5 |
| 1992-95 | 下 | 下 | 下 | 下 | － | － | 下 | 下 | 0 / 7 |
| 1996-99 | 下 | 下 | 下 | 下 | 下 | － | － | － | 0 / 5 |
| 2000-01 | 別 | 別 | 下 | 別 | 下 | － | － | － | 3 / 5 |
| 2002-04 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | － | － | － | 5 / 5 |
| 2005-10 | 別 | 別 | 別 | 別 | 別 | － | － | － | 5 / 5 |
| 2011-14 | 別 | 別 | 別 | － | 別 | 別 | － | － | 5 / 5 |
| 2015- | 別 | 別 | 別 | － | － | 別 | － | － | 4 / 4 |

②汚染一揆

無:汚染一揆について記述がない

有:汚染一揆について記述がある

記載の
割合

| 使用年 | 東京書籍 | 教育出版 | 光村図書 | 大阪書籍 | 日本文教 | 日本書籍 | 帝国書院 | 中教出版 | 割合 | |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|-------|
| 1989-91 | 無 | 無 | － | 無 | － | － | 有(注) | － | 無 | 1 / 5 |
| 1992-95 | 有 | 有 | 無 | 無 | － | － | 有 | 有 | 無 | 4 / 7 |
| 1996-99 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | － | － | － | － | 5 / 5 |
| 2000-01 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | － | － | － | － | 5 / 5 |
| 2002-04 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | － | － | － | － | 5 / 5 |
| 2005-10 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | － | － | － | － | 5 / 5 |
| 2011-14 | 有 | 有 | 有 | － | 有 | 有 | － | － | － | 5 / 5 |
| 2015- | 有 | 有 | 有 | － | － | 有 | － | － | － | 4 / 4 |

(注)一揆の名称はないが差別されていた人々の一揆を記述している。

③医学に貢献

無:被差別身分が医学に貢献したことについて記述がない

有:被差別身分が医学に貢献したことについて記述(解体新書の挿絵解説等)がある

記載の
割合

| 使用年 | 東京書籍 | 教育出版 | 光村図書 | 大阪書籍 | 日本文教 | 日本書籍 | 帝国書院 | 中教出版 | 割合 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 1989-91 | 無 | 無 | － | 無 | － | 無 | － | 無 | 0 / 5 |
| 1992-95 | 無 | 無 | 無 | 無 | － | 無 | 無 | 無 | 0 / 7 |
| 1996-99 | 無 | 無 | 無 | 無 | 有 | － | － | － | 1 / 5 |
| 2000-01 | 有 | 有 | 無 | 有 | 有 | － | － | － | 4 / 5 |
| 2002-04 | 有 | 有 | 無 | 有 | 有 | － | － | － | 4 / 5 |
| 2005-10 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | － | － | － | 5 / 5 |
| 2011-14 | 有 | 有 | 有 | － | 有 | 有 | － | － | 5 / 5 |
| 2015- | 有 | 有 | 有 | － | － | 有 | － | － | 4 / 4 |

④伝統文化

無:被差別身分が伝統文化を伝えたことについて記述がない

有:被差別身分が伝統文化を伝えたことについて記述がある

記載の
割合

| 使用年 | 東京書籍 | 教育出版 | 光村図書 | 大阪書籍 | 日本文教 | | 日本書籍 | 帝国書院 | 中教出版 | 割合 |
|---------|------|------|------|------|------|---|------|------|------|-------|
| 1989-91 | 無 | 無 | － | 無 | － | － | 無 | － | 無 | 0 / 5 |
| 1992-95 | 無 | 無 | 無 | 無 | － | － | 無 | 無 | 無 | 0 / 7 |
| 1996-99 | 無 | 無 | 無 | 有 | 無 | － | － | － | － | 1 / 5 |
| 2000-01 | 無 | 有 | 無 | 有 | 有 | － | － | － | － | 3 / 5 |
| 2002-04 | 有 | 有 | 無 | 有 | 有 | － | － | － | － | 4 / 5 |
| 2005-10 | 有 | 有 | 有 | 有 | 有 | － | － | － | － | 5 / 5 |
| 2011-14 | 有 | 有 | 有 | － | 有 | 有 | － | － | － | 5 / 5 |
| 2015- | 有 | 有 | 有 | － | － | 有 | － | － | － | 4 / 4 |